



5歳～11歳のコロナワクチン接種について

3月から始まる5～11歳の小児へのコロナワクチン接種について、1月19日、日本小児科学会と日本小児科医会から提言がHP上で掲載されました。両学会の共通の見解は次の2点。①5～11歳の健康な子どもへのワクチン接種は12歳以上の健康な子どもと同様に意義がある。②基礎疾患(肥満、先天性心疾患、てんかんなど)のある子どもは重症化予防が期待できるので接種が勧められる。接種するかどうかは、接種によるメリット(発症予防等)とデメリット(副反応等)を保護者と本人が十分に理解して判断するようになっていきます。提言のなかの効果と副反応のデータの一部を示します。

【効果】発症予防効果は90%以上あるが、オミクロン株への有効性を示すデータはない(米国)。【副反応】5～11歳の小児では16～25歳の人と比べて接種後の副反応の出現頻度は低い(米国)。国内での有効性、安全性に関するデータはなく、この年齢に接種されるほかのワクチンと比べると、接種部位の疼痛、発熱、全身倦怠感などの副反応の発現率は高いと想定される。などです。

子どもが新型コロナに感染した場合は軽症のことが多く、重症化することはまれとされています。重症化予防というワクチンの本来の意味合いから考えると、健康な子どもに積極的に接種することには慎重であるべきと考えます。接種をせずに感染した場合、長期間行動制限を強いられ、子どもの日常生活を奪ってしまい、子どもへの心身に影響を及ぼすことも心配です。現状では、各家庭の事情やお子さんの健康状態などを総合的に勘案して保護者が判断するしかないかもしれません。

Q:オミクロン株の症状の特徴は？

イギリスでオミクロン株に感染した18万人を調査した結果によると、「のどの痛み」が多く、「味覚、嗅覚異常」が少ないとされています。その調査のデータでは、のどの痛みの頻度がデルタ株で34%、オミクロン株で53%、味覚嗅覚異常はデルタ株で34%、オミクロン株で13%という結果でした。これはオミクロン株は従来株よりも上気道でウイルスが増殖して炎症を起こしやすいことが原因ではないかと思われます。

また、オミクロン株は従来株よりも重症化しにくいとされ、オミクロン株の感染者の入院リスクはデルタ株の0.2倍、重症化リスク0.3倍(南アフリカ)となっています。また、ワクチン接種者は重症化しにくいということが同調査でわかっています。やはりワクチンは重症化を防ぐ効果があるといえます。

忽那賢志 (感染症専門医) Yahooニュースより



1月の感染症情報

1月に入り、保育所、幼稚園で園児や職員が新型コロナに感染し休園が相次いでいます。休園後は短期間に再開している場合が多く、園児の集団発生には至っていないのが救いです。小児科の外来では感染性胃腸炎の小流行が続いています。インフルエンザの発生はありません。



1月の利用状況

1月の利用延べ人数は25名で、1日平均利用人数は1.2人でした。年齢別では1歳児が11人で最も多く全体の約半数を占めていました。疾患別では急性上気道炎(いわゆる風邪)がほとんどでした。その他、RSV感染症、アデノウイルス感染症、感染性胃腸炎がありました。

新型コロナの流行を受け、今治市と協議をして病児保育室の病児の受け入れも制限させていただいています。ご本人あるいはご家族が新型コロナの感染者もしくは濃厚接触者の場合は入室をお断りしております。ご理解のほどよろしくお願いします。